

地震災害時における養護教諭の活動に関する文献検討

—研究目的に着目して—

Review of literature on the activities of *Yogo* teachers

during an Earthquake disaster

—Focusing on research purposes—

松田 香織*・渡辺 美恵**・土田 満***

* 関市公立中学校 ** 愛知みずほ短期大学 *** 愛知みずほ大学大学院

Kaori MATSUDA *, Mie WATANABE **, Mitsuru TSUCHIDA ***

* *Seki City Public Junior High School*

** *Aichi Mizuho Junior College*

*** *Graduate Center of Human Sciences, Aichi Mizuho College*

キーワード：地震災害; 研究目的; 養護活動.

Keyword : Earthquake disaster; research purposes; requests of *Yogo* teacher.

I はじめに

日本各地では、大雨害、洪水害、浸水害、土砂災害など、自然災害が多発し、大きな被害をもたらしている¹⁾。政府の地震調査本部は、今後30年以内に70～80%の確率で南海トラフを震源とする地震が発生すると報告しており、今後の発生と被害が危惧される²⁾。

災害発生時に養護教諭のとるべき行動については、文部科学省(2010)³⁾や小林ら⁴⁾により、具体的な対処方法や支援方法が示されており、心のケアや健康観察、健康相談や救急処置、施設設備の整備、環境衛生等の役割を担うことが想定されている。

養護教諭の自然災害時の活動に関する研究の動向は、これまでも報告されている。阿久澤ら⁵⁾は、災害時に養護教諭が児童生徒に行う健康支援に関する研究動向と今後の課題の中で、災害後の子どもの健康状況の把握方法や、養護教諭が児童生徒に行った健康支援に関する研究の動向を報告している。特に、福島原発事故に関しては、長期にわたって子どもたちの健

康状況を把握し、支援を継続していく必要性をあげている。工藤ら⁶⁾は大規模自然災害に関わる養護教諭関連研究の動向の中で、支援者支援や二次受傷に関する研究動向を報告しており、子供たちの心のケアを行う立場の養護教諭のメンタルヘルスに関する研究は少ないことや、大規模災害における養護活動について学ぶ機会が少ないことを指摘している。また、大野ら⁷⁾は、養護教諭の職務と役割の変遷の中で、大規模災害時の養護教諭の活動や果たした役割について、大規模地震発生後の対応として、安否確認や心身の健康観察、健康相談へつなぐなど、心のケアを進めていたことから、災害発生時の役割は、日常業務の延長線上であることを報告している。

様々な災害が起こるたびに、養護教諭が経験した支援や果たしてきた役割からこうした研究が蓄積されてきた。しかし、教育系研究者による文献数が少ないことや、学校保健や養護教諭の視点からの研究が進んで

いないことが課題として挙げられている⁸⁾。また、養護教諭自身のメンタルヘルスに関することを報告している研究報告はほとんど見当たらないことや、災害非常時における養護教諭の活動に関する体系的な教育内容の整備が必要となることも課題として挙げられている⁹⁾。

新潟県中越沖地震を経験した養護教諭は、被災時直後はとくに人手が欲しかったと切望していた実態を報告しており、もうひとりの養護教諭の配置を望んでいた¹⁰⁾。こうした背景から、東日本大震災や熊本地震では、被災地域以外の都道府県から養護教諭が派遣され、被災地で支援活動や心のケアを行った¹¹⁾⁻¹²⁾。石村¹³⁾や西連寺¹⁴⁾によると、被災地に派遣された養護教諭の立場から現地での活動を記録した報告はあるが、研究としての報告は見当たらず、研究が進んでいない分野であることが推察される。

そこで、地震災害時における養護教諭の活動に関する先行研究の研究目的について分析し、地震災害時に求められる養護教諭の活動についての今後の研究課題を明らかにすることを目的とした。

II 研究方法

1. 文献の抽出及び選定

文献は、地震災害時の養護教諭の支援活動に関する記載のある研究について、「医学中央雑誌 Web 版」にて検索をした。1995年から2017年6月までの22年間に限定し検索を行った。キーワードを、“養護教諭” and “地震”，“養護教諭” and “震災”，“保健室” and “地震”，“保健室” and “震災” で掛け合わせた。検索日は、2017年12月27日である。

検索した結果，“養護教諭” and “地震” が62件，“養護教諭” and “震災” が63件，“保健室” and “地震” が23件，“保健室” and “震災” が29件，計177件の文献が該当した。このうち、重複しているもの97件，養護教諭自身を対象としていないもの19件，養護教諭の職務に関係しないもの20件，自然災害以外の危機について書かれているもの1件を除いた40件のうち，“特集／解説”を除いた10件を抽出した。また，記載箇所をそのまま分析に採用することから，日本語文献でない1件を除き，9件を採用することにした。

2. 分析方法

選定した9件の文献について，タイトル，発表年，研究目的の記述箇所について本文から抽出し表1に整理した。さらに，研究目的の具体的な記載箇所を抽出し記録単位とした。記録単位の中から，目的の具体内容としてコードを抽出した。コードは，意味内容の類似性に基づいてサブカテゴリー化，カテゴリー化し，

地震災害時の養護教諭の活動に関する研究の目的として表2に分析した。選定した文献において1つの研究で複数の目的が抽出されたものは，文脈から判断して分類した。分析は，共同研究者2名で実施した。

3. 倫理的配慮

対象とする文献は，公表されているもの限定して検索を行った。また，本研究は，中部学院大学・中部学院大学短期大学部倫理委員会の承認（E17-0008）を得て行った。

III 結果

1. 選定論文の発表年及び研究対象の災害名（表1）

選定した9件の論文の発表年は，2011年が1件（11.1%），2012年が1件（11.1%），2013年が3件（33.3%），2014年が1件（11.1%），2015年が3件（33.3%）で，いずれも2011年以降に発表されていた。災害の種類は，新潟県中越沖地震が1件（11.1%），東日本大震災が8件（88.9%）であった。

2. 研究目的の内容（表1）（表2）

研究目的の記載内容を表1に，目的を分析した結果を表2に示した。選定した9件の論文の研究目的の記述から19の記録単位を抽出し，コードが生成された。さらに，12のサブカテゴリー，6のカテゴリーに分類できた。分類の結果は，カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを〈 〉, コードを“ ”で記して説明する。

1つ目のカテゴリーは【行いえた活動の実際】で，“震災後，養護教諭がとってきた行動”を含む〈養護教諭が行った活動〉，“養護教諭が行う児童・生徒への心身の健康支援”を含む〈養護教諭が行う健康支援活動〉，“避難所運営に際し行った活動”を含む〈避難所対応の実態〉である3サブカテゴリーで構成された。2つ目のカテゴリーは【災害時対応の課題】で，“震災2年半後の児童・生徒に対する養護教諭が行う健康支援活動の課題”を含む〈養護教諭の活動の課題〉，“養護教諭として身につけておくべきこと”を含む〈災害時対応に必要な養護教諭のスキル〉，“震災対応への学校支援のあり方”である〈学校支援のあり方〉の3サブカテゴリーで構成された。3つ目のカテゴリーは【養護教諭や保健室の役割】で，“本来具備すべき養護教諭や保健室のあり方”を含む〈養護教諭や保健室のあり方〉，“災害時の保健室の機能の課題”の〈保健室の役割と課題〉，“災害時における養護教諭の役割”の〈養護教諭の役割〉である3サブカテゴリーで構成された。4つ目のカテゴリーは【児童・生徒の心身の健康状態】で，“養護教諭が捉えた被災児童・

表 1. 分析対象文献タイトルと研究の目的

文献 番号	タイトル (発表年)	研究目的の記述箇所 (本文より抽出)
①	新潟県中越沖地震における養護教諭の実践活動と学校保健室の機能について 養護教諭へのインタビューによる質的分析から (2011)	<u>震災直後から学校再開までの学校教育現場における養護教諭の実践活動の実態を明らかにするとともに、災害時の保健室の機能を検討し課題を明らかにする。</u>
②	養護教諭がとらえた東日本大震災後の児童・生徒の健康状態と養護教諭の健康支援活動 養護教諭へのインタビュー調査から (2013)	<u>養護教諭が捉えた東日本大震災で被災した児童・生徒の心身の健康状態を明らかにし、養護教諭が児童・生徒に対して行う心身の健康支援について検討する。</u>
③	東日本大震災から学んだ養護教諭及び保健室のあり方 津波被災地における高校養護教諭の支援活動を通して (2013)	<u>津波被災地に位置する高校の養護教諭が、震災直後から学校再開そしてその後の数ヶ月間において、どのような行動をとってきたのかを明らかにするとともに、このような被災の中で養護教諭や保健室のあり方についてどう捉えたのかを明らかにする。そして、これらのことを通して、今後どの地域でも起こりうる災害発生時に役立つ教訓を得るとともに、災害の有無にかかわらず本来具備すべき養護教諭や保健室のあり方を明らかにしたい。</u>
④	東日本大震災における被災地の養護教諭の対応と意思に関する調査—対処方略に着目しての検討— (2012)	<u>東日本大震災の時に養護教諭はどのように対応したか、震災時における養護教諭の思いを知るとともに、今後養護教諭として何を身につけていけばよいかを明らかにする。</u>
⑤	東日本大震災直後の学校避難所における養護教諭の対応—都市型震災を想定した学校と地域との連携— (2013)	<u>東日本大震災の直後、都市における学校避難所の対応の実態を明らかにし、児童・生徒の生命と安全を確保するため、災害時における養護教諭の役割や今後の課題を検討する。</u>
⑥	東日本大震災時の避難所における養護教諭の活動に関する研究 茨城県における調査結果から (2013)	<u>避難所となった(茨城)県内の学校の養護教諭が地震発生時から避難所運営に際し、どのような活動を行ったのかを明らかにする。</u>
⑦	養護教諭がとらえた東日本大震災後の児童・生徒の健康状態と養護教諭の健康支援活動(第2報) 養護教諭へのインタビュー調査から (2014)	<u>東日本大震災2年半後における児童・生徒に対する養護教諭が行う健康支援活動の実態を明らかにし、今後の課題を検討する。</u>
⑧	東日本大震災における養護教諭の支援ニーズに関する研究—学校再開前、再開以降の支援の必要性の認識— (2015)	<u>東日本大震災発生以降、避難所運営や学校再開に向けた活動の中で、さらには、学校再開以降の子どもとの関わりの中で養護教諭が必要とした支援について明らかにし、学校が震災への対応、さらには、児童生徒に対する継続的なケアを行う際の学校支援のあり方について検討する。</u>
⑨	東日本大震災を体験した福島県養護教諭の語りから—災害時における児童生徒の生命と健康を守る養護教諭の思い— (2015)	<u>東日本大震災において児童生徒とともに被災し、健康支援活動を行った養護教諭の語りから、当事者の視点でストーリーを記述する方法を用いて、養護教諭の体験の意味を検討する。</u>

* 下線部は、研究目的の具体的な記載箇所を抽出し記録単位とした箇所を示す。

表2. 地震災害時の養護教諭の活動に関する研究の目的

文献番号	記録単位	コード	サブカテゴリー	カテゴリー
①	震災直後から学校再開までの学校教育現場における養護教諭の実践活動の実態を明らかにする	震災に対する養護教諭の実践活動の実態		
③	震災直後から学校再開そしてその後の数ヶ月間において、どのような行動をとってきたのかを明らかにする	震災後、養護教諭がとってきた行動	養護教諭が行った活動	
④	東日本大震災の時に養護教諭はどのように対応したか、震災時における養護教諭の思いを知る	震災時の養護教諭の対応と思い		
②	養護教諭が児童・生徒に対して行う心身の健康支援について検討する	養護教諭が行う児童・生徒への心身の健康支援	養護教諭が行う健康支援活動	行いえた活動の実際
⑥	東日本大震災2年半後における児童・生徒に対する養護教諭が行う健康支援活動の実態を明らかにする	震災2年半後の児童・生徒に対する養護教諭が行う健康支援活動の実態		
⑤	都市における学校避難所の対応の実態を明らかにする	学校避難所の対応の実態	避難所対応の実態	
⑥	地震発生時から避難所運営に際し、どのような活動を行ったのかを明らかにする	避難所運営に際し行った活動		
⑤	(災害時における養護教諭の) 今後の課題を検討する	災害時における養護教諭の課題	養護教諭の活動の課題	
⑦	(東日本大震災2年半後における児童・生徒に対する養護教諭が行う健康支援活動の) 今後の課題を検討する	震災2年半後の児童・生徒に対する養護教諭が行う健康支援活動の課題		
③	災害発生時に役立つ教訓を得る	災害発生時に役立つ教訓を得る	災害時対応に必要な養護教諭のスキル	災害時対応の課題
④	今後養護教諭として何を身につけていけばよいかを明らかにする	養護教諭として身につけておくべきこと		
⑧	震災への対応、児童生徒に対する継続的なケアを行う際の学校支援のあり方について検討する	震災対応への学校支援のあり方	学校支援のあり方	
③	被災の中で養護教諭や保健室のあり方についてどう捉えたのかを明らかにする	被災の中で養護教諭や保健室のあり方についてどう捉えたか	養護教諭や保健室のあり方	
③	本来具備すべき養護教諭や保健室のあり方を明らかにする	本来具備すべき養護教諭や保健室のあり方		養護教諭や保健室の役割
①	災害時の保健室の機能を検討し課題を明らかにする	災害時の保健室の機能の課題	保健室の役割と課題	
⑤	災害時における養護教諭の役割を検討する	災害時における養護教諭の役割	養護教諭の役割	
②	養護教諭が捉えた東日本大震災で被災した児童・生徒の心身の健康状態を明らかにする	養護教諭が捉えた被災児童・生徒の心身の健康状態	養護教諭が捉えた児童・生徒の心身の健康状態	児童・生徒の心身の健康状態
⑨	養護教諭の体験の意味を検討する	被災および支援活動への養護教諭の体験の意味	体験の意味付け	養護教諭自身の体験の意味
⑧	避難所運営や学校再開に向けた活動と、学校再開以降の子どもとの関わりの中で養護教諭が必要とした支援について明らかにする	養護教諭が必要とした支援	養護教諭が求めた支援	養護教諭自身への支援ニーズ

生徒の心身の健康状態”である〈養護教諭が捉えた児童・生徒の心身の健康状態〉の1サブカテゴリーで、5つ目のカテゴリーは【養護教諭自身の体験の意味】で、“被災および支援活動への養護教諭の体験の意味”である〈体験の意味付け〉の1サブカテゴリーで、6つ目のカテゴリーは【養護教諭自身への支援ニーズ】で、“養護教諭が必要とした支援”である〈養護教諭が求めた支援〉の1サブカテゴリーで構成された。

IV 考察

1. 研究目的から見られる研究の背景

本研究の結果から、地震災害時の養護教諭の活動に関する研究の目的は、養護教諭自身が【行いえた活動の実際】や、【災害時対応の課題】を明らかにすること、災害時に特化した【養護教諭や保健室の役割】を見出すこと、養護教諭が捉える【児童・生徒の心身の健康状態】を把握することに加え、災害時の活動に携わる【養護教諭自身の体験の意味】を明らかにすること、【養護教諭自身への支援ニーズ】を検討することであったことが確認された。

災害発生後、阪神・淡路大震災時には、「阪神・淡路大震災から学校が学んだこと 全国に、そして未来に伝えたいこと」¹⁵⁾が、新潟中越地震時には、「地震が起きた！その時、学校は、保健室は！？」¹⁶⁾が、東日本大震災時には藤田ら¹⁷⁾による「養護教諭が語る東日本大震災」が発刊された。これらにおいては、災害当時の様子とともに養護教諭が行った活動や養護教諭が行う健康支援活動、避難所での対応等の活動の具体が報告されていた。本研究において明らかになった、養護教諭自身が【行いえた活動の実際】や、【養護教諭や保健室の役割】にも関係する内容と言える。災害時の養護教諭の活動は、児童生徒の安否確認や安全確保、健康観察、心身のケア、救急処置や衛生管理、感染症の予防、不登校児の家庭訪問、家族への支援、他機関専門職員との連携等、多様な役割を果たしており¹⁸⁾⁻²⁴⁾、多岐に渡る内容から実態を明らかにする必要がある。そのため、実際の活動を明らかにする研究が多く取り組まれたものと推察される。避難所運営や災害救急に係る内容は、各地の養護教諭の組織において作成された報告書等は保存版として役立つものが多く²⁵⁾、過去の活動の実際を明らかにすることは、被災しながらも支援を行う養護教諭にとって、参考となり指針となる。今後の活動の役割や具体的対応策を明らかにするために研究に取り組まれたものと推察される。

災害時において養護教諭が行う児童生徒への健康支援の研究動向を分析した研究²⁶⁾の中で、1996年か

ら2000年に文献数が多く、1995年に発行した阪神淡路大震災が関係していることが明らかにされている。災害が契機となり、健康支援における問題や課題が顕在化し、研究活動に反映されていった結果と推察できる。本研究においても、“災害時対応に必要な養護教諭のスキル”や“学校支援のあり方”について検討する【災害時対応の課題】や“養護教諭が求めた支援”について明らかにする【養護教諭自身への支援ニーズ】が見出された。これらにより、災害時の対応や支援活動から課題が生まれ、今後の活動に役立つ示唆を得るために研究が進められたものと推察される。

被災時の体験や自身の思いを伝えることが自分の使命であると考えた養護教諭²⁷⁾や震災での経験を踏まえて児童が育つような支援をしたいと考える養護教諭²⁸⁾がいる。このように、【養護教諭自身の体験の意味】を追求することは、災害時の活動の経験が少しでもよりよい未来や子どもたちの健やかな成長につながることを信じている姿勢が伺える。こういった願いや思いから研究に取り組みされてきたものと推察される。

2. 災害時の養護教諭の活動についての研究の課題

学校保健や養護教諭の視点からの研究は、まだ少なく、研究の蓄積によって、災害時における学校や養護教諭の役割を明らかにする必要性がある²⁹⁾。本研究でも被災地の養護教諭が行った活動や養護教諭や保健室の役割、養護教諭に求められるスキルなど、被災地の学校の養護教諭を対象とした研究目的が多くを占めていた。今後は、養護教諭に求められる様々な場面を想定し、研究を進めていく必要があると考えられる。その1つとして、被災地に派遣された養護教諭や被災地に派遣された養護教諭を受け入れた学校の養護教諭を対象とした研究が見当たらないことである。文部科学省は、東日本大震災時、被災地以外の都道府県から養護教諭を宮城県に派遣しており³⁰⁾、熊本地震では、全国知事会の依頼に基づき、18名の養護教諭等が派遣されている³¹⁾。派遣された養護教諭の人数は、全国的にも多くはなく、加えて、各教育委員会における養護教諭の派遣の仕組みは、まだ十分に構築されていない。派遣された養護教諭は、文部科学省や全国知事会等からの要請を受けて各都道府県から派遣されているため、派遣元の都道府県において派遣報告会³²⁾⁻³⁴⁾という形で自身の経験について報告していた。しかしながら、都道府県単位での報告会で活動が終結している可能性があり、支援に携わった自らの経験を研究論文などにまとめ、公表するまでには至っていないことが考えられる。今後の研究課題として、派遣された養護教諭、派遣された養護教諭を受け入れた学校の養護教諭のほか、様々な立場や状況ごとの養護教諭

の活動についての研究が必要であることが示唆される。

また、活動の実際や機能を明らかにする研究目的は多くみられ、結果、養護教諭の求められる役割が示されている。しかし、養護教諭の思いや願いを明らかにした研究は、わずかであった。他領域においては、被災地に派遣された看護師や保健師、管理栄養士の立場から派遣時の心理的特徴が明らかにされ、派遣者をサポートする体制や教育の充実の必要性について報告されている³⁵⁾⁻³⁷⁾。派遣される養護教諭の心理的特徴を明らかにすることは、派遣される養護教諭自身をサポートし、被災地で適切に支援を行うことにつながり、被災地の養護教諭の助けとなると推察される。今後起こり得る災害に備え、養護教諭が抱いた「思い」に焦点を当てた研究が求められることが示唆された。

V まとめ

「地震災害における養護教諭の活動」について書かれている研究論文9件の研究目的を分類した結果、【行いえた活動の実際】、【災害時対応の課題】、【養護教諭や保健室の役割】、【児童・生徒の心身の健康状態】、【養護教諭自身の体験の意味】、【養護教諭自身への支援ニーズ】の6カテゴリーに分類できた。これまでに発表されている地震災害時の養護教諭の活動に関する研究は、活動の実際や機能を明らかにすることであったことが確認できた。

今後は、様々な立場や状況における養護教諭の支援について研究が行われることが必要であることが示唆された。また、心理的特徴を明らかにする等の養護教諭が抱いた「思い」に焦点を当てた研究が求められることも示唆された。

文献検討に使用した採用論文

(本文中での引用を含む。)

- ① 佐光恵子, 中下富子, 伊豆麻子, 他: 新潟県中越沖地震における養護教諭の実践活動と学校保健室の機能について—養護教諭へのインタビューによる質的分析から, 日本公衆衛生雑誌, 58(4), 274-281, 2011
- ② 佐光恵子, 青柳千春, 阿久沢智恵子, 他: 養護教諭がとらえた東日本大震災後の児童・生徒の健康状態と養護教諭の健康支援活動～養護教諭へのインタビュー調査から～, 学校保健研究, 55(5), 446-457, 2013
- ③ 高橋雅恵, 大谷尚子, 堀籠ちづ子, 他: 東日本大震災から学んだ養護教諭及び保健室のあり方—津波被災地における高校養護教諭の支援活動を通して—, 学校健康相談研究, 9(2), 138-147, 2013

- ④ 飛田昭子, 廣原紀恵, 斉藤ふくみ: 東日本大震災における被災地の養護教諭の対応と思いに関する調査—対処方略に着目しての検討—, 教育保健研究, 17, 9-18, 2012
- ⑤ 佐光恵子, 青柳千春, 田村恭子, 他: 東日本大震災直後の学校避難所における養護教諭の対応—都市型震災を想定した学校と地域との連携—, 群馬大学教育学部紀要, 48, 135-143, 2013
- ⑥ 石原研治, 風間悠: 東日本大震災時の避難所における養護教諭の活動に関する研究—茨城県における調査結果から—, 学校保健研究, 55(1), 24-34, 2013
- ⑦ 青柳千春, 阿久沢智恵子, 丸山幸恵, 他: 養護教諭がとらえた東日本大震災後の児童・生徒の健康状態と養護教諭の健康支援活動(第2報)～養護教諭へのインタビュー調査から～, 学校保健研究, 56(3), 228-237, 2014
- ⑧ 平川昌宏, 西野美佐子, 内藤裕子, 他: 東日本大震災における養護教諭の支援ニーズに関する研究—学校再開前, 再開以降の支援の必要性の認識—, 感性福祉研究所年報, 16, 109-120, 2015
- ⑨ 青柳千春, 丸山幸恵, 佐光恵子, 他: 東日本大震災を体験した福島県養護教諭の語りから—災害時における児童生徒の生命と健康を守る養護教諭の思い—, 群馬大学教育学部紀要, 50, 97-106, 2015

引用・参考文献

- 1) 国土交通省気象庁: 災害をもたらした気象事例, https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/index_1989.html, 2020.9.25 確認
- 2) 南海トラフで発生する地震: 地震に揺らぎがない国にする地震本部, 政府地震調査研究推進本部, https://www.jishin.go.jp/regional_seismicity/rs_kaiko/k_nankai/, 2020.9.25 確認
- 3) 文部科学省: 子どものケアのために—災害や事件・事故発生時を中心に—, 2010
- 4) 小林朋子編著: 養護教諭のための災害対策・支援ハンドブック, 2015
- 5) 阿久沢智恵子・青柳千春・丸山幸恵, 他: 災害時に養護教諭が児童生徒に行う健康支援に関する研究動向と今後の課題, 学校保健研究, 56(3), 219-227, 2014
- 6) 工藤宣子・小林央美・堀籠ちづ子, 他: 大規模自然災害に関わる養護教諭関連研究の動向—支援者支援・二次受傷・教育プログラムに着目して—, 千葉大学教育学部研究紀要, 第64巻, 235-240, 2016

- 7) 大野志保・窪田由紀：養護教諭の職務と役割の変遷—災害・学校事故発生時における養護教諭の役割の観点から—, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要, 心理発達科学, 64, 141-146, 2017
- 8) 前掲5)
- 9) 前掲6)
- 10) 前掲①
- 11) 文部科学省：東日本大震災への対応のための教職員の加配定数について,
https://www.mext.go.jp/a_menu/saigaijohou/syousai/1305570.htm, 2020.9.25 確認
- 12) 平成28年熊本地震に係る養護教諭等の派遣要請について(依頼)(知調二発第31号), 平成28年5月10日
- 13) 石村嘉奈子：児童生徒サポートチームの養護教諭として支援したこと, 学校健康相談研究, 8(1), 61-65, 2011
- 14) 西連寺江里子：ボランティアの視点から見た災害発生時の学校救急看護と養護教諭役割, 学校健康相談研究, 10(1), 20-25, 2017
- 15) 全教神戸市教職員組合：阪神淡路大震災から学校が学んだこと 全国にそして未来に伝えたいこと, 平成8年8月
- 16) 新潟県養護教員研究協議会：地震が起きた！その時, 学校は, 保健室は？—養護教諭の対応と保健室の役割—, 2008.9.25
- 17) 藤田和也：『養護教諭が語る東日本大震災 何を体験し, 何を為し, 何を果たしたか』, 日本教育学会特別課題研究「大震災と教育」「学校・教師」グループ・養護教諭小班2015, 2015.2.25
- 18) 前掲①
- 19) 前掲①
- 20) 前掲②
- 21) 前掲③
- 22) 前掲④
- 23) 前掲⑤
- 24) 前掲⑥
- 25) 内藤裕子, 西野美佐子, 市川昌宏：学校避難所運営に関する宮城県の養護教諭の経験と問い—東日本大震災後3年目に実施した質問紙調査より—, 学校保健研究, 59, 276-287, 2017
- 26) 前掲5)
- 27) 前掲⑨
- 28) 前掲②
- 29) 前掲5)
- 30) 前掲11)
- 31) 前掲12)
- 32) 仙台市教育委員会：熊本の被災小学校への派遣教諭からの報告,
<http://www.city.sendai.jp/johokasuishin/oshirase/documents/kumamotoshougakkouhaken.pdf>, 2020.9.25 確認
- 33) 岐阜県教育委員会：平成28年度熊本地震への職員等の派遣について,
<https://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/bosai/shizen-saigai/11115/kumamotohaken.html>, 2020.9.25 確認
- 34) 平成28年熊本地震「徳島県教育支援チーム」活動報告会, 徳島徳島県教育委員集,
http://kyouikushinkoukeikaku2.tokushima-ec.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=198, 2020.9.25 確認
- 35) 松清由美子, 上平悦子：東日本大震災で支援活動を展開した看護師の心理状況とその背景, 日本災害看護学会誌, 15(2), 15-25, 2013
- 36) 山田晴美, 久住真理, 吉田浩子, 他：東日本大震災の災害支援活動に派遣された保健師の心身の健康に関する調査, 心身健康科学, 9(1), 26-36, 2013
- 37) 濱口ほゆき, 須藤紀子, 笠岡(坪山)宜代, 他：日本栄養士会が東日本大震災の被災地に派遣した災害支援管理栄養士・栄養士の「思い」の分析：日本栄養士会雑誌, 58(1), 35-44, 2015